

岡山市立中央図書館企画展示

けいぎどう 経誼堂と 河本家の人々

会期 令和3年5月11日（火）～7月7日（水）

※月曜休館

会場 岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール前展示コーナー

岡山芸術創造劇場の開館予定地である表町千日前にほど近い旧・船着町ふなつきまち（現在の北区京橋町）に、江戸時代、「経誼堂（経誼書院）」という図書館がありました。

今回の企画では、「経誼堂（経誼書院）」に関する看板、書、肖像画、書籍、印判、龍笛等を展示します。

これらの資料は、平成16年に岡山市の重要文化財に指定されています。（複製の「餓鬼草紙」を除く。）

※この図録では、展示資料のうち「餓鬼草紙」（河本家本・複製）、河本家当主の印判、龍笛以外のものを掲載しています。

けいぎどう けいぎしょいん
(1) 経誼堂 (経誼書院)

経誼堂は、江戸時代岡山城下町の豪商で町方惣年寄を務めた河本家が設置した図書館です。船着町の屋敷内に建てられた書院には、3万冊を超える書物が集められ、その蔵書量の多さは全国に知られていました。経誼堂は、近隣の町人子弟に講義をする学問道場でもあり、また、全国津々浦々から文人墨客が来訪する文化交流の拠点でもあったようです。六代・河本立軒（こうもとりっけん、1749-1809）の時代には岡山藩からも正式に認められ、約50年にわたりその活動が続けられました。民間による公開図書館として先駆的な活動を行った経誼堂は、岡山の文化の発展に大きな役割を果たしました。当館では、流失散逸を免れた経誼堂関係資料約200点を河本家の子孫等から寄贈を受け、保存しています。



看板「経誼書院」

この看板は、裏面に「享和三年癸亥二月」と記されており、六代・立軒の時代に経誼書院（経誼堂）に掲げていたものと思われます。「経誼書院」という名は、京都の公家東久世通積（ひがしくぜみちつむ、1708-1764）に付けてもらったものです。昭和期に戦災を避けて河本家の知人宅に疎開されていましたが、昭和60年に岡山市立図書館に寄贈されました。



一条忠良書「経誼堂」

この書は、関白・一条忠良（1774-1837）によるもので、「河本巢居、至孝の誉れあり、因って書し以てこれを与える」との賛辞が書かれています。四代・河本巢居（こうもとそうきよ、1697-1775）は、岡山藩が藩内の表彰事例を列举した『備前国孝子伝』に取り上げられており、幼くして母と死別し、伯父にあたる三代・一居の養子となって、養父・一居に孝養を尽くしたことが記されています。

(2) 河本家の人々

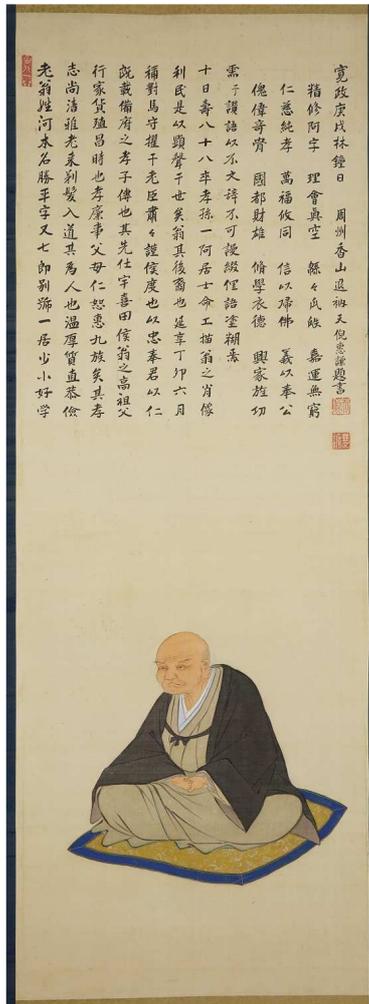
河本家は回船問屋として財を成した岡山城下町きつての豪商でした。岡山藩への寄付も盛んに行っており、その功績により、苗字帯刀を許され、代々、町方惣年寄を務めました。

商売の一方で、歴代の当主は文人が多く、一居、巢居は回船問屋として全国を回る間に、各地の貴重資料や骨董を集めました。幕府老中を務めた松平定信(まつだいらさだのぶ, 1759-1829)が諸国の古宝物を調査して編集した図録「集古十種」には、古鏡、笙、笛、藤原定家像など、河本家のものが多数収録されています。

立軒の後、文化年間(1804-1818)頃から河本家の経営に陰りが生じます。財産の半分ほどを千石船二艘に積み込んで、大坂で売り立てに出したとき、土佐藩主山内侯が、その良質な書籍や珍品の山を見て、国家の至宝を散逸させるのは忍びないと、船のまま買い取ったそうです。



河本定平 肖像画



河本一居(勝平) 肖像画



河本立軒 肖像画



河本公輔 肖像画



河本昶軒 肖像画



河本乙五郎 肖像画

二代 河本定平 (1637-1694)

関ヶ原の合戦で宇喜多勢が敗れた後、町人となった初代・常平の跡を継ぎ、灰屋を営みました。

三代 河本一居(勝平) (1660-1747)

二代・定平の子。北海道松前から九州博多までの沿岸各地の通商に従い、寄港地では偉人や著名な学者と交わり、書籍を収集しました。生涯独身を通し、甥の巢居が跡を継ぎました。

六代 河本立軒 (1749-1809)

五代一居の子。岡山城下町の惣年寄を務めました。古法帖、書画、古銅器等を集め、古鏡は数百面あったようです。三代・一居の頃から行われた書籍の収集は、立軒の時(1808年)には31,672冊にのぼりました。

歌人 河本公輔 (1775-1832)

六代・立軒の子。学問を好み、家督を弟の昶軒に相続させました。京都に住み、公家に出入りして和歌や雅事に生きました。

七代 河本昶軒 (1784-1842)

六代・立軒の子で、公輔の弟。学問を好んだ兄・公輔に代わり家督を相続し、岡山城下町の惣年寄を務

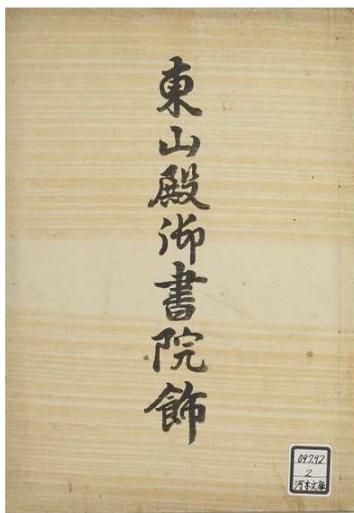
めました。訖軒は、公輔の長子・延之を養子にして本家を継がそうとしましたが、延之が拒んだため、次子の容軒が養嗣子となり家督を継ぎました。

十代 河本乙五郎 (1869-1944)

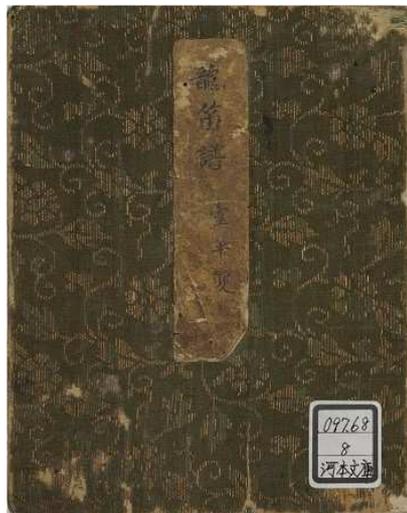
石井十次の岡山孤児院やアダムスの岡山博愛会の事業に協力するなど、社会事業家として活躍しました。岡山市議会議員も3期務めました。

(3) 河本文庫

経誼堂の蔵書はその大部分が流失散逸してしまっており、河本家の子孫から昭和34年に寄贈を受けた資料（「河本文庫」）は、邦楽・茶道・華道・香道関係が中心となっています。



『東山殿御書院飾』



『龍笛譜』

【主な参考文献】

黒崎義博『岡山の図書館 岡山文化と図書館』（岡山文庫 154, 日本文教出版, 1991）

片山新助『近世岡山町人の研究』（楓亭文庫, 1984）

岡山県立美術館編『岡山ゆかりの地獄草紙と餓鬼草紙』（2013）

岡長平「河本一阿と立軒」『古美術』昭和26年1月号（古美術出版社, 1951）

定兼学「蔵書家にして風流人 河本立軒（岡山人物再発見—近世の経済人、文化人— 3）『教育時報』597号（岡山県教育広報協会, 1999）

定兼学「風流人を輩出した岡山の豪商河本家（アーカイブズから学ぶ先人の叡智 第5回）」

『MONTHLY REPORT』No. 511（岡山経済研究所, 2020）